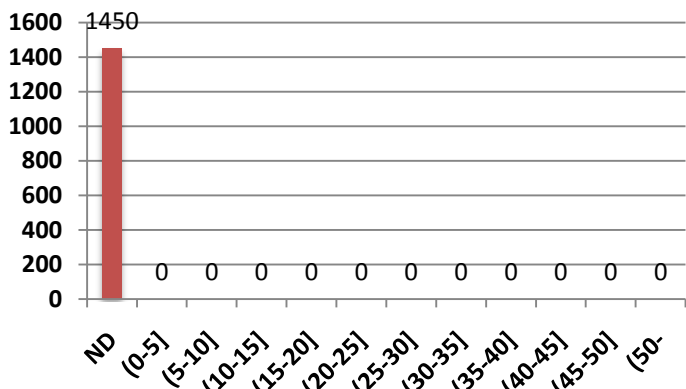


相馬市WBC検査結果概要 (ver. 2012.9.2)

相馬市の住民で、2012.6.11から2012.8.28までに検査を行った方2482名を対象として集計

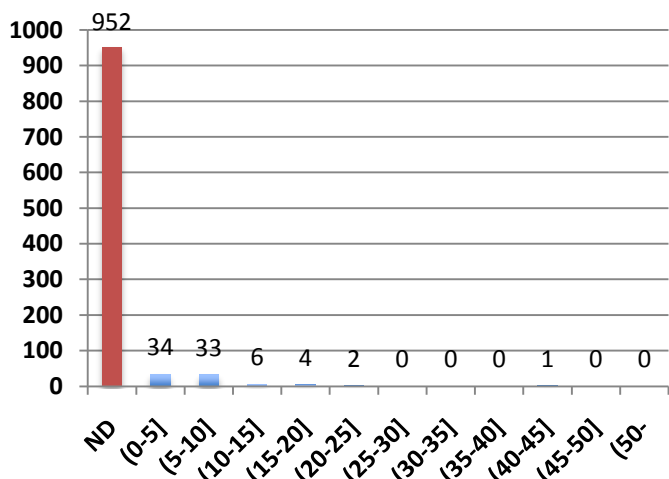
① 小児対象(6-15歳) 1450名 セシウム137対内放射能量別結果



現在、小児では1450名全員が検出限界以下であることを確認している。日常生活上の慢性的な内部被ばくを非常に抑えられていることを示している。

以下、検出限界はセシウム134で220Bq/body, セシウム137で250Bq/bodyです。

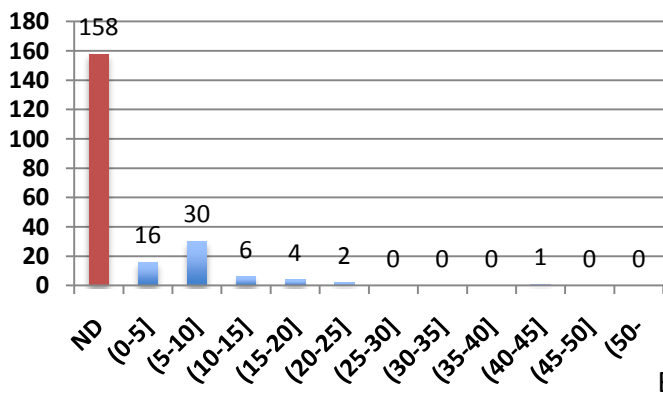
② 成人対象(16歳以上) 1032名 セシウム137対内放射能量別結果



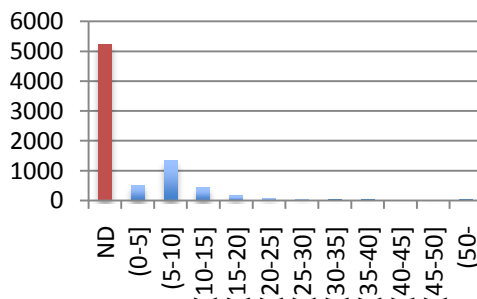
成人では92.2%が検出限界以下であることが確認された。一部検出限界以上の方がいらっしゃり、事故直後の被ばくの影響の残存または、慢性的な食品による内部被ばくが原因と考えられる。

また、これら全員で預託実効線量は1mSv未満であった。 最大値は41Bq/kg 玉野地区在住の70歳男性であった。成人にてセシウム137にて約350Bq/kgを一年間維持した場合、年間の被ばく量が1mSv程度となると考えられる。

③ 玉野地区成人対象(16歳以上) 217名 セシウム137対内放射能量別結果 (小児は全員検出限界以下)



玉野地区のみの集計では、市内の中ではやや高い傾向にはありましたが、健康管理の面では十分低い数値を維持できていると考えられます。引き続き食品検査の徹底が必要です。下記は南相馬市での成人の検査結果集計です。比較してもほぼ差がありません。



玉野地区での値の検出は、事故直後の影響であり、その後の日常生活での影響は非常に小さいと考えられます。